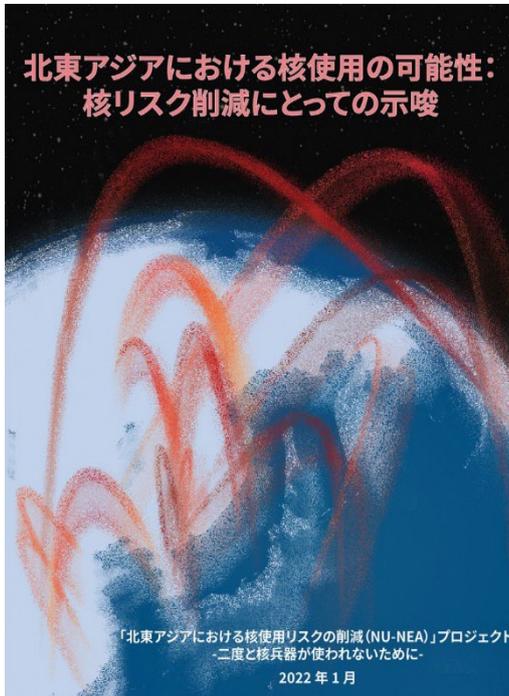


公開(オンライン)シンポジウム 「北東アジアにおける核使用の可能性:核リスク削減についての示唆」

主 催:長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)、
グローバル巨大リスク研究プロジェクト(NURESCA)



ロシアによるウクライナ侵攻は、核戦争のリスクを現実のものとして再認識させました。長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) では、北東アジアにおける核使用リスクの削減を目的に、この地域において核兵器が使用される可能性について、より理解を深めるべく、米ノーチラス研究所、アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワーク (APLN) と国際共同プロジェクト「北東アジアにおける核使用リスク削減プロジェクト」を開始しました。その1年目の成果を発表するとともに、植木 (川勝) 千可子早稲田大学教授、磯崎敦仁慶應義塾大学教授を招いて、RECNA 教員との公開討論を行います。皆様、どうぞふるってご参加ください。

日 時: 2022年5月23日(月)18:00-20:00

場 所: オンライン(Zoom ウェビナー)

プログラム:

18:00 開会挨拶 吉田 文彦 RECNA センター長・教授

18:10 報告 鈴木 達治郎 RECNA 副センター長・教授

18:40 パネル討論

司 会: 鈴木 達治郎

RECNA 副センター長・教授

討論者: 植木(川勝) 千可子

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

磯崎 敦仁

慶應義塾大学法学部教授

西田 充

長崎大学多文化社会学部教授(RECNA 兼務)

19:40 質疑応答

20:00 閉会

参加方法: 事前登録制、5月22日(日)までに参加登録フォームにアクセスいただき、ご記入・送信ください。いただいた個人情報は RECNA により厳重に管理され、RECNA からの案内以外の目的には使用されません。

【参加登録フォーム】 https://nagasaki-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_sVDiMjb3SQC9riRcDnsejw

連絡先: RECNA 事務局 (recna_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp)

報告者・討論者紹介



吉田 文彦:RECNA センター長・教授

1955 年京都市生まれ。東京大学文学部卒、朝日新聞社入社。2000 年より論説委員、論説副主幹。その後は、国際基督教大学(ICU)客員教授、米国のカーネギー国際平和財団客員研究員など。大阪大学にて博士号(国際公共政策)取得。



植木(川勝) 千可子:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

1983 年上智大学国際関係学修士。朝日新聞記者、防衛省防衛研究所主任研究官などを経て、2008 年から現職。2006 年マサチューセッツ工科大学博士号(Ph.D. 政治学)取得。安全保障と防衛力に関する懇談会委員(2009 年)。著書に『平和のための戦争論』ほか。



磯崎 敦仁:慶應義塾大学法学部教授

1999 年慶應義塾大学大学院修士。ソウル大学大学院留学、在中国日本国大使館専門調査員、米ウッドロー・ウィルソンセンター客員研究員など歴任。専門は北朝鮮政治。



西田 充:多文化社会学部教授・RECNA 兼務

専門は、軍備管理・軍縮・不拡散。外務省にて長年軍縮不拡散分野に従事。ミドルベリー国際大学院モンレー校で不拡散を専攻。一橋大学で博士号(法学)取得。主な著書は、『核の透明性—米ソ・米露及びNPTと中国への適用可能性』(単著)。



鈴木 達治郎:RECNA 副センター長・教授

1951 年生まれ。75 年東京大学工学部原子力工学科卒。78 年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士(東京大学)。2010 年 1 月より 2014 年 3 月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議評議員として活動をしている。